

江戸の働き方と文化イノベーション

加納 正二 著

江戸時代の「働き方」や「文化イノベーション」について考察し、今日的な意義を見出す

江戸の武士は仕事量に比して数が多すぎたため、「三番勤め」といって、三日に一日勤めるワーク・シェアリングの制度が実施されていました。この結果、休日に副業を行うようになりました。下級武士が文筆業を始めたり、文化的な娯楽が経済活動に結びついていく過程は「文化イノベーション」とも呼べる現象です。

本書では、元禄時代と田沼意次時代の「文化イノベーション」について考察しています。

元禄時代には多くの書籍が版行される「出版イノベーション」が起き、職業文化人として松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門などが登場しました。

一方、田沼時代になると、四民(士農工商)の区別なく狂歌会に参加し、狂歌と浮世絵のコラボレーションでヒット商品を出すなど「文化イノベーション」が起きました。

有名な武家文人ばかりでなく、無名の下級武士の働き方とワーク・ライフ・バランスも考察します。



▼ 目 次 ▼

- 第 1 章 五代將軍綱吉は犬將軍か大將軍か
- 第 2 章 元禄の文化イノベーション—芭蕉と西鶴—
- 第 3 章 田沼時代の幻想とイノベーション
- 第 4 章 下級武士大田直次郎(狂歌師大田南畝)の働き方
- 第 5 章 寛政の改革と大田直次郎(大田南畝)の生きざま
- 第 6 章 下級武士の副業とワーク・ライフ・バランス
- 第 7 章 江戸の格差と幸福
- 第 8 章 江戸の金貸し
- 第 9 章 江戸から続く長寿企業のメカニズム
- 第 10 章 江戸の貨幣と時間

▼ 著 者 紹 介 ▼

加納 正二 (かのう・まさじ)

1957年、岐阜県生まれ。大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士後期課程修了。

大阪大学助手、大阪府立大学教授等を経て、岐阜聖徳学園大学 経済情報学部 教授。大学院経済情報研究科 科長。博士(国際公共政策)。

専門は日本経済論。主要著書に『地域金融と企業の再生』中央経済社(共著)ほか多数

| | | |
|---|-----|--|
| ご注文申込書 貴店名/帖合 | 注文数 | 発売：株式会社三恵社 TEL:052-915-5211 FAX:052-915-5019 |
| | 冊 | 江戸の働き方と文化イノベーション 加納 正二 著 236頁/46判/並製 定価 1,852円(税別) ISBN978-4-86693-000-8 C0036 |
| ご注文は J R C へ FAX : 03 - 3294 - 2177 TEL : 03 - 5283 - 2230 株式会社 J R C 経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。 | | |